なな山だより　５１号

2021 年 1 月 10 日　なな山緑地の会発行

あけましておめでとうございます

昨年は世界中が新型コロナで明け暮れた１年でした。わが「なな山緑地」でも、３月の総会を延期し、さらに市からの要請で４月５月の２ヵ月間活動を自粛しました。６月になりやっと自粛が解除され総会を屋外で開催し、コロナに充分配慮しながら活動を開始しました。また７月から９月の初めまで熱中症対策として活動は半日としました。８月には市内の公園緑地に「ナラ枯れ」発生の報告がなされ当緑地を調査したところ３０数本に被害があることが判明しました。このような厳しい環境にもかかわらず会員の皆さんが力を合わせて計画通りの活動を進めて道路沿いの清掃、刈払い、畑作業などをこなしてきました。また形は少し変わりましたが幼稚園児、小学生、から大学生までが「なな山緑地」に学習やボランティア体験に訪れてくれました。

さて、今年は、総会で決定した新体制への移行を着実にスタートし、さらにコロナに充分注意しながら「ナラ枯れ」の拡大防止に努め、また、未だにほとんど手の付いていない「中の山」の管理を本格的に行いたいと思います。トピックスとしては昨年１２月から１年かけ「なな山緑地」の記録映画が製作されますので楽しみです。

今年も、事故、怪我のない楽しい１年を過ごしたいと思っています。みなさまの、暖かいご支援、ご理解をお願いして、ご挨拶とさせて頂きます。

令和３年１月　　なな山緑地の会会長　髙木直樹

なな山植物誌

フキ　蕗　キク科

なな山の広場、ウメの木の下にフキノトウが顔を出します。フキノトウはフキの花芽、貴重な春の味なので、なな山では観察する間もないかも知れません。フキは雌雄異株です。苞が開くと中にはたくさんの小花が並んでいますが、その中のひとつの花をよく見ると、雄株の花の花弁は５裂した両性花です。両性花ですからオシベもメシベもありますが、花後に背は伸びても結実せずに枯れます。雌株の花はほとんどがオシベのない花なのですが、花の中央に雄花と同じ形の花が２、３個潜んでいます。この２、３個の花には花粉ができないそうです、昆虫を呼ぶためのおとりのようです。虫を騙して受精した雌花は 5 月頃になると背が一気に伸びて綿毛が発達し種を飛ばし繁殖します。また雄株も雌株も地下茎が発達していて、その先に芽を付けるので繁殖力は旺盛です。人間に食べられてしまうことを見越しての繁殖力なのでしょうか。（中原）

雄花（両性花）：５裂した花弁からメシベが出ている

雌花：雌花の中には雄株と同じ形の花が潜んでいる

写真は「松江の花図鑑」より

南鶴牧小なな山自然観察会　日にち：11月21日（土）

陽射しが強く夏を思わせる 11 月 21 日（土）、南鶴牧小、秋のなな山自然観察会が開催された。参加者は、23 人（子ども 13 人、教員 3 人、保護者 7 人）。あいさつの後、さっそく西の山の自然観察。秋の実、紅葉、落ち葉、冬支度の虫が主なテーマ。講師は、相田さん。広場でドングリに 2 タイプあることから話が始まる。子どもたちは、あちこちに落ちている丸いドングリ（クヌギ）と細長いドングリ（コナラ）を拾って観察。シイタケの原木栽培、ムラサキシキブ、ナツハゼ、コウヤボウキ……。西の山の山道を登りながら秋の里山を巡る。山頂では落葉の話。地面のなかの微生物に食べられ、それが山の草木の栄養となって山を作っている。昔は雑木林の樹木は薪や炭にしていた。「囲っているのはナゼ？」と質問。「ヤブレガサといって、なな山ではここにしかないので大事に保護している。カサが破けた感じから名前が付いた」。真上を見上げ「上の葉っぱの色が変わっていない？ ほかは緑なのに茶色に枯れている。木の根に近いところに白い木のくず（フラス）がわかる？」と話すと、「ナラ枯れ。ニュースで見た」と女の子の声。拍手が上がる。可憐なキチジョウソウの花と赤い実を見たところで観察終了。お楽しみは何といっても森遊び。落ち葉ソリ滑り、ターザンブランコ。落ち葉溜めに向かって滑るソリ滑りはスピードが出る。しかも落ち葉溜りに突っ込んで落ち葉まみれになる。5 メートル以上の枝からぶら下がるターザンブランコはスリリング。最後は広場に戻って工作。シノダケ・ヒンメリ作りだ。細いササの枝に針金を通して作る。2 時間があっという間に過ぎ、お昼タイム。時折吹く強い風で落ち葉が舞い踊る。ときにコツンとヘルメットに当たる。ドングリだ。秋の自然がそこにあった！

次回は 2 月、冬のなな山観察会だ。葉がすっかり落ちた里山の姿はどうなるかな。

青山学院大学のボランティア活動報告　日にち：12月5日（土）

１２月５日（土）は小雨模様でしたが、青山学院大学の学生さんたちは９時半ころバスで第一陣の数人が到着、次のバスで第２陣が来て１０名（女性７、男性３）、ボランティアセンターから１名計１１名でした。なな山のメンバー１０人が出迎えました。

１０時から会長の挨拶、住崎さんからこの土地を寄贈した経緯の説明、相田さんの案内でなな山の見学です。西の山を中心に里山と農業のつながり、樹木の種類、珍しい植物やシイタケ・ナメコの観察などを行いました。学生さんたちは興味深そうに説明を聞いていました。続いて落ち葉掃きの実習です。全員で西の山の斜面に程よく積もった落葉を熊手で掻き集めて落葉溜めに入れる作業に取り組みました。ブルーシートで落ち葉を運ぶ作業も体験しました。作業が一段落した時、相田さんが二小のために準備したターザンブランコのロープを解いて「さあやってみよう」と女子学生に勧めました。最初はもじもじしていましたが中の一人が手を挙げて「やってみます」とこわごわブランコに乗りました。キャーッと声を上げながら空中に飛び出し２度３度ブランブランして着地、面白かったとの感想に私もという学生さんが何人もでてきました。さらに、落葉滑りも勧めるとこれにも何人かが挑戦、キャーキャー言いながら結構楽しんでいました。昼近くなりましたが、雨で濡れて座るところもないのでお弁当は帰りの途中で食べるということで解散となりました。お土産にフクロウストラップ、シイタケ、ナメコなどを差し上げました。

活動している間は雨も気にならない程度の降りでしたし、学生さんから自然と親しめて新鮮で楽しかったなという感想もあって、良いボランティア活動体験でした。（鎌田）

エコ・フェスタ2020

日にち：12月5日（土）・6日（日）

12 月 5 日(土)～6 日(日)、「多摩消費生活フォーラム＆エコ・フェスタ 2020」がベルブ永山で開催された。例年開催されていたパルテノン多摩が改修のためベルブ永山に移り、多摩消費フォーラムとの同時開催になった。5 日は、朝から小雨が降る生憎の天気。午前は来場者が少なく、各団体のスタッフが交流を兼ねた意見交換に花が咲いた。午後は、ファミリー4 組を含め 40 名ほどが来場。

天気が回復して晴れた 6 日も午前は来場者が少なく、手持ち無沙汰が続いた。午後の工作コーナーは、シノダケ・ヒンメリ作りが人気で賑わった。開始の 1 時を待ちかねたように母子二人と女性三人組が受け付けに。「ぶんぶんゴマ、シノダケ・ヒンメリ、丸太切り、どれにする？」と尋ねる。全員「シノダケ・ヒンメリ！」。テーブルに座ってもらうが、講師の中山さんは車移動でいない。湯元さんが材料を渡し、作り方を話し始める。若い女性が見本を組み合わせたものを作りたいと意欲を見せる。まず見本から作ろうとなだめる。とそこに女性一人がさらに参加。テーブルを増やし座ってもらう。基本の三角形を作ってもらっているうちに中山さんが来るはず、と作り方をアドバイス。暑い！　セーターを脱ぎたい！　汗を拭きながら声を上げる。

中山さんが到着して落ち着きを取り戻す。参加者全員、指導に従って見本と同じものを完成させ、さらにほかのものや高度なものに挑戦していた。思えば、最初に来た 3 組は、前日の午後展示会場に来て「ヒンメリを作りたい」と要望していた面々。シノダケ・ヒンメリの魅力が広がっていると実感したエコ・フェスタだった。

なな山緑地の会との出会い

中鶴　正憲

第 17 期初級講座と第 15 期中級講座受講生です。出身は九州・久留米で生を受け筑後川で産湯を使い、田んぼと野菜畑しかない田舎で初心な青年時代を過ごした為か、この年になっても生活習慣や訛りが抜けきらない青年です。サラリーマン時代は、定年後の朝寝と時間に縛られない生活を夢みていましたが、そんな生活が半年も続くと体調と体型と奥方に変化がありました。その時、多摩市民検診でメタボ予備軍なので[タニタ]から体質改善プログラムの案内が届きました。この際だからと思い半年の体質改善講座を受けました。次に、家庭菜園を申し込んだら幸いにして当選。青空の下で通称畑名人の小言を聞きながら楽しくやっています。こんな流れで多摩市健康促進員にもなり、同じ推進員の D さんからグリーンボランティアの活動を紹介され、第 17 期の初級講座を受講しなな山に入会しました。

なな山の活動は、巾が広いので入会時は何をしていいのか分からず皆さんの足手まといになっていたと思います。今でも、同じような状態ですので恐縮しています。又、活動日が他の行事と重なり出席率が悪いのが現状です。今後は少しでも参加できるようにうまく調整をしたいと思っています。先輩諸氏の 17 年間の地道な活動があるから、この様な大きな会となり、皆様が生き生きと活動を継続してくださって今のなな山緑地の会があるのだと、つくづく頭の下がる思いです。先輩諸氏に感謝・感謝・感謝です。東京都内のコロナ感染者数が最多を更新しており、60 歳以上の死亡率も 7.6%と高水準です。会員の皆様も高齢者が多いので、私は、今まで以上の感染予防対策をして、なな山の美味しい空気を吸って、楽しんで、そして健康でなな山の保全活動を続けたいものです。

筑後川

なな山日記（活動・観察記録）

No. 392　2020年　9月13日（日）　曇　気温　25℃
参加者　22人
暑さ対策の一つとして暑さ指数計「みはりん坊」を活用する。

● 作業/刈払い機整備、刈り払い、畑の整備、ナラ枯れ調査。
● 観察/シュウカイドウ、フユノハナワラビ。

No. 393　2020年　9月27日（日）　曇　気温　21℃
参加者　17人
ナラ枯れ樹木対策の為カシナガトラップを設置することになった。

● 作業/畑作業、広場・中の谷の刈り払い、ナラ枯れ調査、刈り払い機の修理。
● 観察/シラヤマギク、ヒガンバナ

No. 394　2020年10月18日（日）　晴　気温　16℃
参加者　13人
前回雨の為、振替活動。カシナガトラップの試作をした。

● 作業/刈り払い、折損木の整備、竹囲いの制作、畑に施肥。
● 観察/ナツハゼ、フユノハナワラビ、オケラ。

No. 395　2020年10月25日（日）　晴　気温　20℃
参加者　22人
秋晴れで絶好の活動日和となり、大勢の参加者だった。

● 作業/伐倒木の置場作り、サツマイモ収穫、法面の刈り払い、ナラ枯れ調査。
● 観察/カシワバハグマ、フジバカマ。

No. 396　2020年11月8日（日）　曇　気温　22℃
参加者　20人
例年は落ち葉となるコナラの葉がほとんど残っている。近年時期が遅くなりつつある。

● 作業/サトイモの収穫、クヌギの苗掘起こし、刈り払い。
● 観察/オケラ、センリョウ。

No. 397　2020年11月22日（日）　晴　気温　20℃
参加者　19人
新体制で今期活動報告と来季に向けて計画を立てる。

● 作業/堆肥を畑に運搬、落葉溜め整理、ドングリの植付け、エコフェスタ準備、西の山刈払い、リースの枠作り。
● 観察/リンドウ。

No. 398　2020年12月13日（日）　晴　気温　15℃
参加者　20人
大勢の参加者により、予定したさまざまな作業ができた。

● 作業/種芋保存作業。バス通り歩道の刈払いと刈草や落ち葉の運搬と清掃、新しい落葉囲いの設置、ダイコン収穫、刈払い機の修理。

No. 399　2020年12月20日（日）　晴　気温　11℃
参加者　18人
今年の作業は今日が最後。皆様一年お疲れ様でした。

● 作業/法面のカヤ刈取り、ハヤトウリの整理、西の山の刈払い、歩道の落葉整理等。
● 観察/ウメ（紅梅）。

編集後記

「なな山だより」は2005年9月に創刊、以来16年を経てついに本号で51号を迎えました。感慨無量です。戸谷さん、中原さん、そして飯田さんという素晴らしい女性たちに依ってここまで来ました。内容も充実し、レイアウトも洗練されました。今、この51号から100号に向かって新たなスタートです。これからも「なな山だより」をご愛読よろしくお願いいたします。（K）

なな山だより　第51号　2021年　1月10日発行

発　　行　なな山緑地の会
発行責任者　髙木直樹
住　　所　多摩市和田 1394-13
ホームページ　https://nanayamaryokuti.jimdofree.com/
編集委員　鎌田文雄　飯田歩